

2016年5月15日(日)朝10:10～

聖霊降臨節第1、ワックス塗り等

5月第3聖霊降臨日共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：助け主の派遣

聖書:ヨハネ 14章15～17節

＜口語訳＞

新約聖書165頁

ヨハネ 14章15～17節

＜新共同訳＞

新約聖書197頁

ヨハネ 12章15～17節

＜新改訳第3版＞

新約聖書210頁

ヨハネ 12章15～17節＜塚本訳＞

新約聖書326～327頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇ヨハネ書は、ヨハネがヨハネ書1章14、18節で記録しているように、「ことばが人となった」**神の御子イエス・キリスト**の証言録です。

◇ヨハネ書には、7つのしるし(奇蹟)が記録されていますが、それが「ことばが人になったお方」＝「**神の御子キリスト・罪からの救い主**」と、「**証言できる証拠**」であると、ヨハネは訴えているのです。

◇ヨハネ書14章15～17節は、**神の御子主イエス様の決別説教**の、箇所で、**聖霊の派遣**が約束されています。

⇒本日の聖書箇所は、**牧会手帳の説教計画の聖霊降臨日に扱うよう指定されたもの**です。

⇒**聖霊降臨日**は、**神の御子主イエス様が死人の中から復活された日から50日目**に起こった出来事なので、**五旬節(50日目)**から**ペンテコステ**とも呼ばれています。

⇒**五旬節**は、農業をする人々の季節を表現してありますが、季節としては、**小麦の収穫時期**でした(**過越祭**が、**大麦の収穫期**です)。

⇔穀物のささげものにも、小麦は用いられた。

本論；

◇本日、ヨハネ書14章15～17節から主の使信に思い・心をとめます。

◆ヨハネ14章15～17節；ヨハネは、神の御子主イエス様が、世を去った後、父なる神が、聖霊を派遣して下さると、神に祈りつつ、約束して下さいました。

◇15～17節；塚本訳◆弁護者(パラクレートス)・神、キリストとの同居

「15 あなた達は(皆別れを悲しんでいるが、本当に)わたしを愛するなら、わたしの掟を守り(互に愛し)なさい。

16 そうすればわたしも父上に願って、(わたしに代わる)ほかの弁護者をおくっていただき、いつまでもあなた達と一しょにおるようにしてあげる。

17 これは真理の霊である。この世(の人)には見えもせず、わかりもしないから、これを受け入れることが出来ない。(しかし)あなた達にはこの霊がわかる。いつもあなた達のところをはなれず、また、あなた達の中におるのだから」と、ヨハネは記録しています。

◇15節；「あなた達は(皆別れを悲しんでいるが、本当に)わたしを愛するなら」、「わたしの掟を守り(互に愛し)なさい」と、ヨハネは、神の御子主イエス様の約束のことばを書き残しています。

⇒「わたしの掟を守り(互に愛し)なさい」と、塚本訳はなっていますが、このギリシヤ語は現在形ですので、「わたしの掟を守る」が適格な翻訳で、神の御子主イエス様は、命令も、指示もしておられず、「(本当に)わたしを愛するなら」、「わたしの掟を守る」との神の子が、既に互に愛することができる者にされている事実を告げておられるのです。

⇔但し、「(本当に)わたしを愛するなら」という条件がついています。

⇔これは、「神の御子主イエス様を愛する」こと、「神の御子主イエス様に服従する」ことは、「神の御子主イエス様の父なる神を愛し、服従された姿」を見てきた弟子たちには、充分理解できることだったからです。

⇒「神の子たちに求められた祈り」(14:14)から分るのです。祈りと服従は、神の子の要です。

◇16節；「そうすればわたしも父上に願って」、「(わたしに代わる)ほかの弁護者をおくっていただき」、「いつまでもあなた達と一しょにおるようにしてあげる」と、神の御子主イエス様は約束して下さいました。

⇒KT師が、ヨブの神信仰を例証して、彼の顔は、論争する4人の人々に向いていたが、ヨブの心は常に神に向かい、祈っていたと、ご指摘の通り、神の御子主イエス様の心は、父なる神に向かっており、神の御子主イエス様なき後のことで不安になっている弟子たちの思いを見抜き、「**弁護者の派遣**」を神に祈り、願って下さったのです。

⇒「**助け主**」、「**弁護者・擁護者**」、「**慰め主**」などと多様に翻訳されるギリシヤ語「**παράκλητος**」は、基本的には、「傍らの呼び出された者」を意味するので、レオン・モリスは、「**弁護者・擁護者**」を推奨しつつも、父なる神が派遣される**聖霊なる神**は、その全ての働きをもって、神の御子主イエス様が弟子たちの友となって下さったように、友として寄り添って下さるのです。

⇒そして、**15節**で語られたように、**父なる神、子なる神と聖霊なる神を愛し、神信仰者が「互いに愛し合う」という神の新しい戒め・命令**をイスカリオテ・ユダの裏切りの後、弟子たちに与えて下さったのです(13:34、35)。

◇**17節**；「これは真理の霊である」、「この世(の人)には見えもせず、わかりもしないから、これを受け入れることが出来ない」、「(しかし)あなた達にはこの霊がわかる。いつもあなた達のところをはなれず、また、あなた達の中におるのだから」と、神の御子主イエス様は、**神信仰者・神のみことばへの服従者に慰めのことばを語っておられます。**

⇒「**真理の霊**」は、14:6で、**神の御子主イエス様**がご自身を「**真理の道**」と言い、サマリヤの女性に、「**神は霊である。だから礼拝者も霊と真理とをもって礼拝せねばならない**」と語り、「**真理の霊**」は**神礼拝へ導いて下さるのです。**

⇒**神の御子主イエス様**は、「**真理の霊である聖霊**」も、**神に祈り、願い、神服従しない者の心に内住ができないと、レオン・モリスは解説**しています。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**ヨハネ書**には、**7つのしるし(奇蹟)**が記録されていますが、それが「**ことばが人なったお方**」＝「**神の御子キリスト・罪からの救い主**」と、「**証言できる証拠**」であると、**ヨハネ**は訴える。
- ◇**ヨハネ書14章15～17節**は、**神の御子主イエス様の決別説教の箇所**で、**聖霊の派遣**が**約束**されています。
- ⇒**神の御子主イエス様**は、弟子たちが目で見て、手で触り、直接声を聴くという生活から目で見ず、肉声で聴けず、手で触ってその存在を確かめることができない生活に移ることに不安を抱いていることを見抜き、**父なる神**が、**神の御子主イエス様の祈り、願い**に答えて、「**助け主**」、「**弁護者・擁護者**」、「**慰め主**」として、**聖霊なる神**を**派遣**して下さると語って、**愛と希望**を示されました。
- ⇒**ニューマン**が語った、「**あらゆるキリスト信者ひとりひとりと、一度に接することができるなどということは、神以外にあり得ません**」の**ことば**を心にとめたいと願います。